

『コロナ禍から新たな歩み』

昭和村女性防火クラブ
会長 竹之内 美智枝

2020年、世界中が突然のパンデミックに襲われた目に見えない相手、新型コロナウイルス!! 当たり前だと思っていたことがそうではなかったことに気づかされた。

令和4年コロナ禍3年目、私は村の婦人会長を引受け、利根沼田女性防火クラブ連絡協議会の活動に参加しました。コロナ禍で様々な活動が制限される中、昭和村婦人会も3年間活動が自粛されたことで気持ちが離れ、会員数の減少により令和5年5月にコロナが5類に移行するのを目前に65年の歴史に幕を閉じることになりました。女性防火クラブの参加が難しい状況になりましたが、以前県の指導者研修会に参加した際に花いっぱい運動を行っている支部があったことを思い出し、村に「女性防火クラブ」が発足すれば婦人会が行っていた花植えも継続できるとの思いから元婦人会長へ相談したところ一緒に村へ働きかけて令和6年に「昭和村女性防火クラブ」が発足し、32名の方に協力していただき活動が始まりました。

た。ご尽力いただいた元婦人会長、各市町村の婦人会長さん、消防署の皆様のお力添えに心より感謝申し上げます。

村内の活動では花いっぱい運動、河岸段丘マラソンのボランティア活動に参加、消防署さんにお世話になり「普通救命講習」を行いました。今後、炊き出し訓練など行いたいです。

また、県や郡の行事で学んだことを会員の皆様にお伝えし予測できない火災や自然災害に備え、防火防災の意識の向上に努めつつ楽しく活動していきたいと思います。



2025年度
全国統一防火標語

「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」



発行/群馬県女性防火クラブ連絡協議会 編集/利根沼田女性防火クラブ連絡協議会
事務局/前橋市大手町1-1-1 (利根沼田広域消防本部 予防課)



利根沼田
広域消防本部 HP



お問い合わせ【利根沼田広域消防本部】
TEL 0278-22-3137 (予防課)



利根沼田 とねぬまた 女性防火クラブ連絡協議会だより

令和8年2月 発行



家庭における火災予防の普及徹底を図り、併せて地域の自主防火・防災体制の確立に寄与することを目的に活動しています。家庭での火災予防知識を身につけ、地域全体の防火意識の高揚を図り、住宅用火災警報器の普及啓発活動などを通じて、家庭から火災を出さない安全なまちづくりに貢献してまいります。

CONTENTS

- ◆『婦人会と女性防火クラブ』 鈴木 春美・・・2
- ◆『命を守る備えを地域へ』 高橋真知子・・・2
- ◆『地域啓発活動の記録』 宮田千代子・・・3
- ◆『女性防火クラブの活動について』 小林 曜子・・・3
- ◆『コロナ禍から新たな歩み』 竹之内美智枝・・・4



『婦人会と女性防火クラブ』

みなかみ町女性防火クラブ
会長 鈴木 春美

みなかみ町女性防火クラブは、現在50名で活動しています。主な活動は、住宅用火災警報器設置推進であります。地元のスーパーベシア月夜野店駐車場において、消防職員の方と合同でチラシ配布を行っています。

また、みなかみ町では毎年9月に生涯学習フェスティバルが開催され、来場者に住宅用火災警報器のリーフレットと啓発品の配布を行ったり、消防署へ消防車両の展示等を依頼し、親子連れの方たちには大変喜んでいただいています。

地域においては、初めての試みとして防災訓練を地域住民にも参加してもらい一緒に行いました。防災訓練で実施したことについて紹介します。

①防災食作り

赤十字から災害時の炊き出しなどに使用される「ハイゼックス包装食(炊飯袋)」を提供してもらい、参加者にご飯を炊いてもらいました。また、みなかみ町から長期保存食アルファ化米五目ごはんとビスケット保存缶を提供してもらい試食しました。

②消火訓練

訓練用消火器を使用しての初期消火は「火事だー、火事だー。」と大きな声で叫びながら少し恥ずかしい気にもなりましたが、実際の火災では大きな声で周りの人に周知しなければわからないと思いました。

③救急訓練

包帯(三角巾)の使用方法、AEDの使用方法及び竹竿と毛布を活用した傷病者搬送方法について学びました。



令和7年度の活動を振り返って、住宅用火災警報器設置推進としてパンフレットの配布だけではなく、別の推進方法を考えていきたいと思いました。

そして、防災訓練は初めての試みではありましたが参加者の反応が良かったと思いました。女性防火クラブは婦人会とイコールであります。長年にわたり婦人会活動に防火クラブ活動を取り入れてこなかったことが反省でもあります。そのため、行政においても防火クラブ員であるという実態が認識されていなかったように思います。

今後は、行政にも働きかけていく必要性を痛感し、会員の高齢化と減少に歯止めがかからず存続の危機ではありますが、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

『命を守る備えを地域へ』

沼田市薄根婦人会
会長 高橋 眞知子

沼田市薄根婦人は、現在32名で地域の安全を守るため、日々活動を続けています。火災予防の啓発活動を通じて、家庭や地域の安心を支えることが私たちの使命です。小さな心がけが大きな防火につながります。台所の火の元確認、電気器具の点検、そして「もしも」に備えた避難経路の確認。皆さま一人ひとりの意識が、地域全体の安全を築きます。私たちは地域のイベント等に参加し、住宅用火災警報器の設置や点検の重要性を広く呼びかけ、パンフレット配布を通じて「命を守る備え」をお伝えしています。こうした取り組みを通じて、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指しています。これからも仲間と共に、笑顔あふれる安心のまちづくりに努めてまいります。



『地域啓発活動の記録』

片品村女性防火クラブ
会長 宮田 千代子

令和7年11月に村民を対象とした「住宅用火災警報器」の啓発活動、アンケート調査を片品村女性会、福祉バザー会場にて行いました。当日はバザーと産業文化展との同時開催でしたので大勢の皆様にご来場いただき、消防本部予防課の方々と一緒に設置維持管理のパンフレットと防災ホイッスル等を一人ひとりに内容を話しながら配布し、アンケート調査にもご協力をお願いしました。来場者がアンケート調査に快く応じてくださり、予定していた配布数及びアンケート調査も達することができました。



「住宅用火災警報器」がまだ未設置の一般家庭において、一軒でも多くの設置義務普及の役に立てれば幸いです。師走に入り、新聞、ニュース等で住宅火災の情報が増えています。映像が流れるたびに「火災の怖さ」を感じています。

これからも「住宅用火災警報器」の設置維持管理について多くの人に知ってもらい、それを伝えていながら地域の防火防災の啓発運動に取り組み参加していきたいと思っています。



『女性防火クラブの活動について』

川場村女性防火クラブ
会長 小林 曜子

私たち、利根沼田女性防火クラブ連絡協議会の川場地区の活動目的は家庭や地域における防火、防災意識の向上です。

消火活動は行いませんが女性ならではの視点を生かして地域に寄り添った啓発活動を行っています。ここ最近、山林火災や住宅火災など頻繁に起きています。まず、家庭で火災を起こさないのが大事ですが、日頃から防火意識を高めることが重要だと思います。

私たちの活動としては、火災予防啓発で住宅火災警報器の普及促進です。11月に行われる川場村文化祭において、住宅用火災警報器の設置から10年が電池交換の目安で電池が切れていないか、もう一度見直すようにパンフレットや啓発品を来場者に配布して声掛けをしました。

利根沼田女性防火クラブ連絡協議会では、防火防災意識を高めることを目的として、令和7年度の研修視察では、首都圏外郭放水路の視察に行きました。あまりにも壮大で驚きました。人口密集地域の東京、埼玉が自然災害などの洪水から守るために作られた地下放水路です。

私たちの地域は、自然豊かで災害には程遠いですが、万が一の備えは必要だと研修を通してつくづく感じます。また、各地域が行っている防火、防災の活動報告を聞く機会もあります。話を聞いて自分たちにも何ができるか考え、今後の活動に活かしていければと思います。

